

令和6年2月28日(水)(R5第48号)

先週行われた「6年生を送る会」では、4年ぶりに全校が体育館に集まることができました。一生懸命に練習してきた発表を披露したり、真剣に他学年の発表を見たり、1年生が6年生一人一人の名前を呼んだり、プレゼントを渡したりと、在校生(1~5年生)は6年生のために、6年生は在校生のためによく頑張りました。

「とどけ ありがとうの想い ~新たな一步を~」というスローガンのもと、互いに「ありがとうの想い」を届けあう送る会になったと思います。個々の頑張りはもちろん、学年の結束、そして全員が集い、心を込めて目の前にいる6年生や在校生のために発表するという気持ちが、素敵な空間を作ったのだと思います。

どの学年も頑張りました。特に5年生は発表の他に、企画を立て、5年生の中での役割分担、他の学年にお願いする役割分担、会場づくり、音響、司会、会の進行など「6年生を送る会」を成功させるために尽力しました。

そして、送られる方の6年生も大変すばらしく、その様子を箇条書きにします。

- その1 1年生の呼名に合わせて大きな声で返事をし、班ごとに一発芸を披露した。
- その2 一発芸に合わせて、他の6年生がフォローのリアクションをした。
- その3 各学年の発表を真剣に見ていた。
- その4 各学年の発表に本気の反応を見せていた。
- その5 yoasobiの「アイドル」をボディパーカッションで表現した。
- その6 映画「パイレーツ オブ カリビアン」のテーマ曲「彼こそが海賊」を合奏した。

ボディパーカッションも合奏もかっこよく、思わず見とれてしまいました。卒業まであと15日。充実した日々を過ごしてほしいと思います。

おまけの話になりますが、送る会の中には「先生方の出し物」もありました。AKBの「365日の紙飛行機」を合唱しました。私は指揮をやることになり、だれよりも緊張していました。

たくさん練習したのですが、失敗した箇所がいくつもありうなだれれて(?)いると、ピアノを演奏した先生が、有名な音楽家の言葉を投げかけてくれました。

「間違えずに演奏することは、一番大事なことではない。それが一番ならばロボットに演奏させればいい。大切なのは、曲の流れを止めず、感情を込めて、その時だけの空間を作ること」

4年ぶりに全員が集うことができた「6年生を送る会」。お互いを想い、ありがとうの気持ちを伝えあえる素敵な空間にすることができました。子どもたちの頑張りのおかげです。